

スポーツボランティアサミット 2021 報告書

# Beyond 2021

～これからのスポーツボランティア～



開催日：2021年10月24日(日)

主催：特定非営利活動法人日本スポーツボランティアネットワーク

共催：一般財団法人日本財団ボランティアサポートセンター

後援：公益財団法人日本スポーツ協会

---

## 開催概要

主催：特定非営利活動法人日本スポーツボランティアネットワーク (JSVN)

共催：一般財団法人日本財団ボランティアサポートセンター

後援：公益財団法人日本スポーツ協会

開催日：2021年10月24日(日)

テーマ：Beyond 2021～これからのスポーツボランティア～

開催方法：オンライン開催 (Zoom ミーティング使用)

参加者：64名

## プログラム

**13:00～13:05**

### 開会挨拶

渡邊 一利 (JSVN 理事長)

**13:05～13:40**

### 開催目的の説明

**13:45～14:55**

### グループディスカッション

＜ファシリテーター＞

平田 隆之 氏 (特定非営利活動法人市民プロデュース 理事長)

・第1ラウンド テーマ

「あなたはどんなボランティア活動をしていますか？また、それはなぜですか？」

・第2ラウンド テーマ

「ボランティアの価値とはなにか？」

・第3ラウンド テーマ (4つのテーマから参加者が1つを選択)

A: コロナ禍での挑戦、コロナ禍のボランティアのカタチ

B: ボランティア活動のあゆみを振り返り、宝物を共有しよう

C: 感動！発見！この夏、わたしが輝いた経験

D: その他 (フリートーク)

(X:チャットで参加=聴取環境によりマイク・カメラOFFで参加の人への対応)

**14:55～15:00**

### ビデオメッセージ

室伏 広治 氏 (スポーツ庁 長官)

河合 純一 氏 (日本パラリンピック委員会 委員長)

(以下、敬称略)

# プログラム内容

## (1) 開会挨拶

**渡邊 一利 (JSVN 理事長)**

早いもので、東京 2020 大会より約 2 カ月近くが経過しました。新型コロナウイルス感染拡大による多くの制約を受けながら、大会関係者やボランティアの皆さんの熱意もあり、最大限の成果を得る、歴史に残る大会になったのではないのでしょうか。

本日の参加者のなかには大会ボランティアや都市ボランティアで活動された方も多い一方で、参加したくても参加にいたらなかった方、あるいは、これからボランティアをはじめようという方もいらっしゃると思います。

ところで、一般に「スポーツ参画人口」というとらえ方があります。これにはスポーツを「する」「みる」「ささえる」が含まれます。それぞれに共通して大切なことは、「自ら楽しむ」こと。それによって、スポーツによる爽快感や観戦による歓喜という素晴らしい時間を体験できます。

また、ささえる活動であるボランティアでは同じ時間や空間を仲間と一緒に過ごすことができ、大きな満足感を得られることでしょう。

本日は限られた時間ですが、最後まで自ら楽しむことを忘れずに、それぞれのスポーツ活動やスポーツボランティア活動を振り返ってください。そして、他の参加者と情報共有を図りながら、スポーツボランティアの未来に思いをはせていただければと思います。

## (2) グループディスカッション

**<ファシリテーター>**

**平田 隆之 (特定非営利活動法人市民プロデュース 理事長)**

【プロフィール】

山口県出身。東京 2020 大会の U ターンを契機に、主に行政が主催する大型事業でさまざまなセクターをつなげるかけ橋の役割を担ってきた。2011 年山口国体や 2013 年東京国体などで、ボランティアの募集、研修、運営などに携わり、大会後の街づくりにボランティアの力が継続的に発揮されるよう、市民や自治体への支援を行っている。

### 【実施方法】

第 1 ラウンドから第 3 ラウンドまで異なるテーマでグループディスカッション実施。

Zoom のブレイクアウトセッションを使用し、3~5 人の少人数でテーマについて 15~20 分、対話する。ラウンドごとにメンバーをシャッフル（席替え）を行った。

## 第 1 ラウンド テーマ

**あなたはどんなボランティア活動をしていますか？ また、それはなぜですか？**

平田： アイスブレイクを兼ねて自己紹介をしなが、ボランティアの活動フィールドについて考えましょう。東京 2020 大会のボランティアだけでなく、地域の活動や子どものスポーツ活動、防災や障害者のサポートなど、俯瞰した視点や幅広い視野で考えることで、互いの気づきや発見を深めてほしい。

《 3~5 人ずつブレイクアウトルームに分かれ、15 分間のディスカッション。その後、参加者数名が各ブレイクアウトルームの様子を報告 》

## 【各ブレイクアウトルームの様子について】

西野華子（山梨県）：

グループは4人。うち2人は会社をリタイアされた人で、1人は以前からスポーツボランティアに興味があって挑戦している方、もう1人は元ランナーで、今はスポーツクラブなどで恩返しと思って活動している方、もう1人は現役で、大学生とボランティアをつなげている方。いろいろな話が聞けて、楽しかった。

鳴嶋一明（東京都）：

大きな大会参加だけがボランティアではないし、機会もそれほど多くない。より地域に根ざすことも大事ではないかということを中心にディスカッションした。地域での活動にはリーダーや人材がそれほど多くない。今後はボランティア経験者が中核となって活動を広げてほしいという意見も出た。

坂本ちはる(千葉県)

グループ4人のうち3人は私を含め、ボランティア初心者。残りの1人は仕事をリタイア後、ボランティアに取り組んでいる人だったので、主にその人の経験を初心者3人が聞くという形になった。これからボランティアに積極的に参加したい人にとって、勉強になるよい機会となった。

私自身は東京オリンピックのボランティアに参加して、これからもスポーツボランティアとして活動していきたいと思っている。なぜなら、ボランティアは対価としてお金を得られるわけではないが、アルバイトよりも人との出会いや経験が心にダイレクトに響いてくると思ったから。また、オリンピックと一緒に活動した仲間たちからも、皆、そういう経験を大事にしている様子を感じられたから。

平田： ボランティアは無償性の活動と言われるが、お金ではない報酬は必ずある。私も運営者の立場としてそういう報酬を作っていかなばと思っている。それを体感された人のうれしいコメントが聞けてよかった。

## 第2ラウンド テーマ

### ボランティアの価値とはなにか？

平田： ボランティアをする人や活動がなぜ大事だと言われるのか、実感や知識から考察を深めてもらいたい。東京2020大会だけでなく、地域での活動やお金では得られない報酬など、幅広く考えてみましょう。

《 3~5人ずつブレイクアウトルームに分かれ、15分間のディスカッション。その後、参加者数名が各ブレイクアウトルームの様子を報告 》

## 【各ブレイクアウトルームの様子について】

きたよしお（奈良県）：

私は年齢が高く、サミットは初参加。スポーツを長年やってきたが、アスリートには支えてくださるボランティアがいることが見えていないところもある。これからは私自身もボランティア活動を積極的にやろうという思いでNPO法人を設立。スポーツを通じた人とのつながりがボランティアの価値だと思って取り組んでいる。グループディスカッションでも、「仲間を大事にしよう」という思いが強く感じられた。

岡本佳澄（東京都）：

ボランティア活動はだれでも参加できるフラットな環境だが、それぞれ求めるものが違う。出会いや成果、経験など、それぞれがいろいろなことを求めて集まり、それぞれ求めるものを得られることがボランティアの価値であるといった話しになった。

平田： 「ボランティアの価値」は難しいテーマだと思うが、いろいろな意見が出て参考になった。

### 第3ラウンド テーマ（4つのテーマから1つを選び、グループディスカッション）

A:コロナ禍での挑戦、コロナ禍のボランティアのカタチ

B:ボランティア活動のあゆみを振り返り、宝物を共有しよう

C:感動！発見！ この夏、わたしが輝いた経験

D:その他（フリートーク）

X:チャットで参加＝聴取環境によりマイク・カメラ OFF で参加の人への対応

平田： 第3ラウンドでは、ボランティアをする人や活動がなぜ大事だと言われるのか、実感や知識から考察を深めてもらいたい。東京2020大会だけでなく、地域での活動やお金では得られない報酬など、幅広く考えよう。

《 3～5人ずつブレイクアウトルームに分かれ、15分間のディスカッション。その後、参加者数名が各ブレイクアウトルームの様子を報告 》

#### 【各ブレイクアウトルームの様子について】

森浜（京都府）：テーマA選択

ディスカッションではコロナ禍の影響を受けているさまざまな現状が聞けた。例えば、2人の大学関係者からは学生にボランティア活動を推奨しにくく、悩んでいるという話があった。また、家族に医療や福祉の関係者がいる人はボランティア活動を控えたと話していた。よい気づきになった。

千葉の鮎沢（千葉県）：テーマC選択

東京2020大会ボランティア経験者が中心のメンバーだった。話をしながら皆、笑顔だったので、大会で楽しい経験や貴重な経験をされた様子が伝わってきた。

### まとめ

#### 「明日からの行動宣言」または、「今日一番の収穫」

#### 【個人ワーク 実施方法】

情報共有を経た今の思いとして参加者各自が、「明日からの行動宣言」、または、「今日一番の収穫」について、チャット欄に書き込む。

## チャットで送信された「明日からの行動宣言」または、「今日一番の収穫」(原文ママ)

ひとのつながりを作る。  
つながり(ネットワーク)は行動(フットワーク)から。

ボランティアとして参加した時には一緒に  
なって楽しむ!

難しく考えずできる活動に軽やかに参加し  
ていきます!

感染対策バッチリでボランティアする! Go  
to Paris!

多様性の尊重

また機会があれば企画に参加して経験を積  
んでいきたいです

パリへ行く

小さな新しい行動を積み重ねよう!

出来ない理由を探すのではなく、出来るこ  
とを見つけよう

「楽しい」を伝えることの重要性を改めて  
認識

更に明日からも仲間を増やしていく。

パラスポーツを実際に一人多くみてもらい  
たい

スポボラ&観光ボラのために、語学力向上を  
目指します。

ボランティアはやって、楽しいと感じることが  
大切

自分以外にも若い人でボランティアに対して愛をもって人はたくさんいると実感したのが一番の収穫です！「楽しい」が一番！

新しい人に出会うと、新しいボランティアに出会えて、自分の世界が広がっていくのを感じます。

相手が気持ち良くなるように、ボラを続ける。相手が気持ち良いと感じられるボラを目指します。

機会があれば皆さんにお会いして話がしてみたい

今日一番の収穫は、若いボランティアに興味を持っている優秀な人がいることを認知したことです。いつか協働したいです。

マラソン以外のボランティア経験者や、オリパラでも他の会場の人達と話ができたのがよかったです

皆さんの活動の源を知ることができた

やってみよう気持ちを行動に移す。

思うような活動でなくても「楽しむ」ことが大事！

自分を磨くことをあしたから始めようと思います。次は26年アジア大会

【明日からの行動宣言】人にやさしく人のために行動 相手と楽しさを共有する

【今日一番の収穫】様々な方の様々なボランティア経験の話が聞けたこと！このイベントでボランティア仲間と出会えたこと

すでに新たな活動に踏み出していることが、今日の皆さんとの話で確信が持てました。

ボランティア同士が交流も持てるように活動も行っているのですが、更に力を入れてみたいと思います。

スポーツをみんなに伝える、スポーツ伝道師になります！

楽しむことが一番。これからも頑張ろう。

「ボランティア」奥が深いなあ～。自分はこれから何をやるかと、今一度考える機会を得られました。

今日一番の収穫（オリパラロスの皆様へ）『モチベーション維持のために、イベントを詰め込む！』まずは大阪・東京・名古屋のマラソン！ 大きくは Paris2024！！

上手いかわからなくても腐らずに、出来ることをやる。そしてパリを目指す！

画面越しではありましたが、久しぶりに懐かしい方々とお話しが出来て良かったです。

【行動宣言】今できる最大限の対策をしながら、今しかできない体験と、感動を受け取ることを忘れない！

今、リタイア後専門学校でアジア留学生向けに講師をしています。Olympic の経験を踏まえ、海外の方とも一緒に成長・頑張りたいと思います、宣言させていただきます。

コロナ禍でしばらく会えていないボランティア仲間、連絡をしてみる「元気にしてる？」「また一緒に活動しようね！」「待ってるよ！」などなど。

すべての人が笑顔になるボランティアを目指す！

オリパラはまだ終わらない。ムーブメントを起こすのは、これからの自分たちだっ！

ボランティアは、心が動けばどこへでも行く人！

多くの皆さんと貴重な情報を共有できたことが一番の収穫でした。有難うございました。

皆さんのお話により 人とのつながりは人生を豊かにする と教えていただきました



今日1番の収穫は、自分の経験や思いがみなさんと共通していると、改めて絆を感じました。

もう一步進みたい。

違う分野のボランティアも、興味がわいたのならまずは参加してみよう！と思いました♪

コロナ禍でのボラ参加の方々からは、参加者が少なくなっている、という現状をお伺いしました。対策等もだいぶ徹底されてきている状況。少しずつでも参加者が戻ってくる取り組みができればいいですね。

今日一番の収穫は、初めましての私に皆さんが丁寧にボランティアの醍醐味を教えてくださいました。ことと、今日の出会いです。ありがとうございました

フリートークで話された方々は、Volunteerの経験も長く、大都市圏を幾つか廻り、今やParisへの話に広がっていきました。

地域活性化で自分も楽しみ、共に楽しむ相乗効果！

スポーツ以外のボランティアにも挑戦してみる！

人のつながりが宝ものであり、感謝をもってこれからもボランティアの輪を広げる活動を続けていこうという思いをより強く持った今日でした。知的障がいのある人にスポーツする場を提供している団体です。「スペシャルオリンピックス日本・県名」で検索してください。



## 【全体ワーク 実施方法】

参加者の挙手により、ファシリテーターが指名した参加者数名が個人ワークでの書き込み内容を発表  
蜂谷（東京都）：

「明日から小さな、新しい実践を積み重ねよう」

毎日新しい小さなことを積み重ねることで、自分自身を毎日リバイスさせる。新しい自分を作っていくことで、積極的になって周囲を明るくし、ボランティアでも仕事でもいきいき生きることに通じる。そして、素晴らしい世界を作れると思っている。

さかい：

ベテランの方も多く、なかには 2004 年から活動している方も。動き方もダイナミックで、東京マラソンから静岡や名古屋の大会へと広域に活動されているなど、大きな大会に参加している方が多かった。次のパリ大会にもいくという声もあった。

東京の田中（東京都）：

「ネットワークはフットワークから」

いろいろなところに押しかけようと思っている。2019 年に埼玉県熊谷市のラグビーワールドカップのボランティアをして熊谷市とご縁ができたので、コロナが少し落ち着いたところでラグビーロードの清掃ボランティアを始めた。また、岩手県釜石市のラグビー会場で旗を振るボランティアを募集していたので参加した。楽しいし、もし相手先も楽しんでくれたら、うれしい。今後もネットワークを作るためにフットワークを使うことを心がけたい。

齋藤（福島県）：

福島県にあるサッカーのナショナルトレーニングセンター、Jヴィレッジを「スポーツボランティアの聖地にしよう」というイベントを運営している。今年も 12 月に開催予定。（東日本大震災からの）福島の復興最前線であり、原発事故に最も近いため怖さもあり、来る機会も少ないと思う。だからこそ、1 年に 1 回、スポーツボランティアが集まる機会を作り続けたい。今日は、スポーツボランティアの方は機会と意義、モチベーションがスイッチオンされた途端に動ける人だと強く感じた。災害復興にも絡む福島の現状を見に、イベントにもぜひ参加してほしい。

## （3）総括

**平田 隆之（特定非営利活動法人市民プロデュース 理事長）**

**澁谷 茂樹（JSVN 事務局長／公益財団法人笹川スポーツ財団 シニア政策ディレクター）**

平田： まずは、澁谷さん簡単な自己紹介をお願いします。

澁谷： スポーツボランティアには 2000 年頃から関わっていて、東京マラソンのボランティアプログラム立ち上げから、調査などを担当している。

今日は、10 代から 89 歳まで幅広い年代の方に参加いただき、価値があった。各ラウンドを通して、話のきっかけが東京 2020 大会になることも多かったが、日常的に障害者スポーツや地域のスポーツクラブ、競技団体でボランティアに取り組む方の活動など、幅広いお話が伺って貴重な時間となった。

平田： Zoomのおかげもあり、さまざまなバックグラウンドの方が集まった。「自己成長」「リーダーや人材」「地域」「海外」「自発性」「熱意」「フラットな関係」などボランティアに関するキーワードがたくさん出てきた。

澁谷： ボランティアの価値として一番多かったのは「人との出会い」。他に、こうした研修会参加も含めて、「得られる新しい知識や経験」も挙がっていた。また、多くの方が「楽しむこと」をキーワードにしていた。自ら楽しもうとすることで、スポーツボランティアの価値もより高まると感じさせられた。

平田： 主催者によるボランティアの受け入れ方やその存在も重要だという声も聞こえた。

澁谷： JSVN は 2012 年の設立以来、スポーツボランティアの価値をより多くの方に伝えることを目的に活動してきた。特にスポーツイベントの主催者や自治体には、スポーツボランティアを便利な労働力と考えるのではなく、イベントの価値を高め、ともに盛り上げる仲間だととらえてほしいと伝え、浸透させようと努めてきた。最近はそのような考え方の主催者が増えている手ごたえもある。

だが、まだすべてがボランティアの力を最大限に生かしてイベントを盛り上げようという形にはなっていないと感じている。引き続き、JSVN として発信していきたい。

平田： たしかに、まだ改革の余地がありそうだ。気持ちはあっても、技術的、仕組み的に難しい場合もあると思うので、そうした整備も進むといいなと思う。澁谷さん、最後のメッセージを。

澁谷： 今日の参加者はスポーツボランティアに対して前向きな方たちだと思った。各ラウンドの様子を見て、人前で話すことが苦手な人でも、いいお考えや熱い思いを持っている人がたくさんいると感じられた。いろいろな人と話をして自分の考えを整理することも、次のボランティア活動に進むうえでいいステップになると思う。こうした会を活用し、これからの活動に生かしていただきたい。

平田： たしかに。皆さんが「スポーツボランティアの価値」をアンバサダーやメッセンジャーになっていただける方たちだと感じた。そういうスキルを伸ばして、どんどん広めていただければ。

皆さん、今日はありがとうございました。

## メディア掲載

媒体名：新聞

タイトル：未曾有の五輪 大会ボランティア、感動とともに得たものは

掲載日：2021年11月30日（火）

内容：<https://www.kanaloco.jp/sports/misc/article-765108.html>

## 参加者 集合写真





## 日本スポーツボランティアネットワーク

特定非営利活動法人 日本スポーツボランティアネットワーク  
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 3F  
TEL : 03-6229-5620 FAX : 03-6229-5621  
<https://spovol.net> E-Mail : info@jsvn.or.jp